令和７年度　理学療法学科・教員資格及び教育内容の自己評価

様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1ー1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	人	人	人	人	人	人	６人	人	13 人	13 人	
計	人	人	人	人	人	人	６人	人	13 人	―	

【自己評価 1ー2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2―1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	心理学	15	道広　博之	専任
		コミュニケーション論	15	谷永　憲史	専任
		人間関係論	8	宮本　淳	専任
		キャリア教育学	23	山本　圭佑 宮本　淳	専任
		統計学	8	今野　哲男	専任
		物理学	8	今野　哲男	専任
		生物学	15	今野　哲男	専任
		保健体育	15	宮本　淳	専任
		外国語	8	道広　博之	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能および心身の発達	解剖学	30	浦川　将	兼任
		解剖学実習	23	浦川　将	兼任
		生理学	30	井﨑　義己	専任
		生理学実習	23	井﨑　義己	専任
		運動学	30	今野　哲男	専任
		臨床運動学	15	今野　哲男	専任
		人間発達学	15	藤井　玲子	兼任
		基礎医学演習Ⅰ	15	今野　哲男	専任
		基礎医学演習Ⅱ	15	専任教員	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の成り立ち	臨床心理学	8	道広　博之	専任
		病理学概論	8	河原　和子	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	住居　広士	兼任
		整形外科学Ⅱ（画像診断学を含む）	15	住居　広士	兼任
		内科学Ⅰ	15	今野　哲男	専任
		内科学Ⅱ（臨床薬理学を含む）	15	今野　哲男	専任
		神経内科学Ⅰ	15	浦川　将	兼任
		神経内科学Ⅱ（画像診断学を含む）	15	浦川　将	兼任
		老年期学	8	熊田　健司	兼任
		精神医学	15	溝畑　美香	専任
		一般臨床医学	8	今野　哲男	専任
		救急救命医学	8	大瀬戸　亮平	兼任

		健康増進論 （栄養学を含む）	15	小松　晃	兼任
		臨床医学演習Ⅰ	15	宮本　淳	専任
		臨床医学演習Ⅱ	15	専任教員	専任
	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	リハビリテーション医学	8	住居　広士	兼任
		リハビリテーション概論 （地域包括ケアシステムを含む）	15	熊田　健司	兼任
		社会保障制度論	8	福場　典子	専任
専門 分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	15	井﨑　義己	専任
		動作分析学	15	小松　晃	兼任
		理学療法研究法	8	今野　哲男	専任
		理学療法実践論	30	道広　博之 谷永　憲史 佐々木　昭	専任 専任 兼任
		理学療法演習Ⅰ	23	専任教員	専任
		理学療法演習Ⅱ	23	専任教員	専任
		理学療法演習Ⅲ	23	専任教員	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	日和　和貴	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	15	梶田　山護	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	23	梶田　山護	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	23	梶田　山護	専任
		理学療法画像評価学	15	今野　哲男 井﨑　義己 宮本　淳	専任
	理学療法治療学	日常生活活動	8	井﨑　義己 熊田　健司	専任 兼任
		日常生活活動学実習	23	道広　博之	専任
		運動療法学	8	宮本　淳	専任
		運動療法学実習	23	宮本　淳	専任
		物理療法学	8	梶田　山護	専任
		物理療法学実習	23	梶田　山護	専任
		義肢装具学	8	平田　慎太郎	兼任
		義肢装具学実習	23	平田　慎太郎	兼任
		疾患別理学療法学Ⅰ（運動器－上肢）	30	小松　晃	兼任
		疾患別理学療法学Ⅱ（運動器－下肢）	30	宮本　淳	専任
		疾患別理学療法学Ⅲ（脳血管障害）	30	佐々木　久登	専任
		疾患別理学療法学Ⅳ（神経難病）	15	佐々木　久登	専任
		疾患別理学療法学Ⅴ（脊髄損傷）	15	今野　哲男	専任
		疾患別理学療法学Ⅵ（呼吸障害）	15	井﨑　義己	専任
		疾患別理学療法学Ⅶ（小児）	15	小川　舞衣香 今野　哲男	兼任 専任
		疾患別理学療法学Ⅷ（心疾患・糖尿病）	15	井﨑　義己	専任
		疾患別理学療法学Ⅸ（リスク）	8	道広　博之	専任
		疾患別理学療法学Ⅹ（終末期）	8	井﨑　義己	専任
	地域理学療法学	生活環境学	23	宮本　淳	専任
		地域理学療法学	15	野坂　寿子	兼任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	45	専任教員	専任
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	135	専任教員	専任
		臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	360	専任教員	専任
		臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	360	専任教員	専任
		臨床実習Ⅴ（訪問または通所リハ実習）	45	専任教員	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3ー1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3ー2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学実習）	１年後期	コミュニケーション論	１年前期
		キャリア教育	１年通期
		人間関係論	１年後期
臨床実習Ⅱ（評価実習）	２年後期	理学療法評価学総論	１年後期
		理学療法評価学実習Ⅰ	１年後期
		理学療法評価学実習Ⅱ	２年前期
		理学療法実践論	２年通期
臨床実習Ⅲ・Ⅳ（総合臨床実習）	３年前期	理学療法実践論	２年通期
		疾患別理学療法学Ⅰ（運動器-上肢）	２年前期
		疾患別理学療法学Ⅱ（運動器-下肢）	２年後期
		疾患別理学療法学Ⅲ	２年前期
		疾患別理学療法学Ⅷ	２年後期
臨床実習Ⅴ（訪問または通所リハ）	３年前期	地域理学療法学	２年後期
		生活環境学	２年後期

【自己評価 3ー3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3ー4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3―5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報:自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	理事長・学校長　平田　冨美子
組織の開催頻度	原則　年２回
組織の取り組み内容	・学生アンケートに基づく学生満足度の分析
	・該当学科の自己評価結果の分析
	・必要に応じ、授業参観の検討
	・教職員研修会（研究事業含む）の開催企画
自己点検・評価結果の公表	HP で公表（URL:http://www.iwad.ac.jp）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	シラバス検討会
	委員構成等	学科長、教務主任、学科教員等
	改善の仕組みの実際	毎年度末にシラバス作成の更改等について検討する

【自己評価 4―3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果を単年度計画に盛り込み、学校全体で組織的に取り組んでいる。また、運営会議を実施し、目標達成に向けた課題の具体的な取り組みを示し、教職員に周知し取り組んでいる。